

冠崎のヤマモモを守る人

－ 小さなことを続けることが夢をかなえる－

- 1 学 年 第6学年〔中期〕
- 2 主題名 夢に向かって努力する心〔1－(2)〕
- 3 ねらい おじいさんの話を聞いて自分を振り返る主人公の気持ちに共感させることを通して、夢に向かって努力しようとする態度を育てる。
- 4 資料名 「冠崎のヤマモモを守る人」
- 5 展 開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導 入	<p>1 1学期に書いた自分の今の夢や目標について想起する。</p> <p>○ 今のみんなの夢や目標は何ですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一流の卓球選手になること。 ・ 次のそろばんの試験に合格すること。 	<p>○ 心のノートを見ながら自分の夢や目標を確認できるようにする。</p>
展 開	<p>2 資料「冠崎のヤマモモを守る人」を読んで話し合う。</p> <p>○ 久しぶりにヤマモモを見に行った時、どんなことを考えていたでしょう。</p> <p>◎ おじいさんの話を聞いて気持ちがしずんできたわたしはどんなことを考えていたでしょう。</p> <p>○ 毎日のピアノの練習をまた、始めようと思ったわたしは、どんなことを考えたでしょう。</p> <p>3 自分たちの生活を振り返って話し合う。</p> <p>○ 夢や目標に向かって努力しようとしたことやできなかったことはありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヤマモモは元気かな。 ・ 久しぶりに行くけど、変わっていないかな。 ・ いつも中途半端な自分は情けないな。 ・ おじいさんは、こんなに長くがんばっているのに自分は どうして頑張りが続かないんだろう。 ・ おじいさんだってやめようと思ったことがあるんだ。 ・ やめてもまた始めれば いいんだ。 ・ 夢をなげださないことが大事だ。 ・ 今からまたピアノ練習を始めても遅くない。 	<p>○ 資料の内容把握の手だてとして冠崎のヤマモモの写真を提示する。</p> <p>○ 児童の経験も出させながら、わたしの気持ちに共感できるようにする。</p> <p>○ おじいさんが掃除や手入れを再開した理由を補助発問で問いかけることで考えを深めさせる。</p>
終 末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標や夢を実現するためにもう一度がんばってみよう。 	<p>○ 夢に向かって、再チャレンジをしている人の話をする。</p>

6 授業の概要

(1) 主題について

人が夢に向かって努力しようとする時の行動の発端は、成し遂げようという決心から始まる。しかし、決心だけでは目標の達成は難しい。実際に行動に移し、一つ一つの課題を克服していく成就感や満足感を感じながら、粘り強く続けることが、目標を達成したという大きな喜びにつながり、人間的にも大きく成長できるものとする。

中期になると、計画的に日常生活における努力目標を立て、多少の困難にもくじけずに希望と勇気をもって取り組むことによって、目標に向かって着実に前進していこうとする強い意思と実行力が求められる。

そこで、本資料を通して、自分の夢に挫折することがあってもあきらめず、前向きに努力し続けようとする態度を育てたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 実施の時期について

本資料は、児童が卒業を意識し始める2学期半ば頃に、特に自分の目標や夢について考えさせるきっかけとして扱うとよい。

イ 中心場面の設定について

本資料は主人公の気持ちが2段階で変わる。1つ目は、おじいさんの話を聞いて自分を責める場面である。この時の主人公の気持ちは多くの児童が経験しており、共感しやすいと予想される。2つ目は、おじいさんも途中で挫折していたことがあり、再び始めたことを知った場面である。この場面で主人公が希望をもってまたがんばってみようとする姿に共感させることで、ねらいにせまらせた。

ウ アンケートの活用

展開後段では、これからの決意を述べさせるのではなく、成功体験、失敗体験を発表させたい。その際、事前アンケートにより把握した児童の実態を活用して、補助発問をしたり意図的指名をしたりしていくことによって、自らを見つめさせたい。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

導入では、1学期に「心のノート」に記入している自分の夢や目標を確認させ、現状について振り返らせることによって、価値への方向付けをしたい。

イ 価値にせまる工夫

中心発問では、一度掃除をやめかけたおじいさんが、再開した理由を考えさせることで、夢や目標を実現させたいという強い気持ちをもつことが大切であることに気付かせたい。その際、郷土愛について考えさせることはおじいさんの夢を考える上で必要であるが、ねらいからはずれない程度の扱いとしたい。また、一度挫折しても、また始めればいいことに気づかせ、目標や夢に向かって努力しようとする意欲をもたせたい。

ウ 終末の工夫

夢に向かって再チャレンジをしている人の話をして、児童に希望をもたせるようにしたい。